

令和4年8月8日
国土交通省九州地方整備局
北九州国道事務所

記者発表資料

国土交通大臣表彰伝達式開催 道路ふれあい月間推進標語

最優秀賞 高岩 智志（たかいわ さとし）さん

【小学生の部】 福岡県 私立敬愛小学校2年

「また明日 どうろにひびく 友のこえ」

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発を図ることに努めております。

この月間にあたり、推進標語を広く一般から募集したところ、全国から2,909作品の応募がありました。そのうち、高岩さんの作品は、入選した全9作品の中で【小学生の部】の**最優秀作品**に選ばれました。

つきましては、下記により、北九州国道事務所長より賞状と記念品を伝達します。

（日時）令和4年 8月18日（木）午前9時30分から

（場所）九州地方整備局 北九州国道事務所 2階 所長室
（住所：北九州市小倉南区春ヶ丘10番10号）

※取材につきましては、8月17日（水）までに下記担当まで連絡をお願いします。

問い合わせ先



国土交通省 九州地方整備局 北九州国道事務所

副所長 なんぶ よしたか 南部 祥隆 （内線）205

管理第一課長 やまぐち まさあき 山口 正暁 （内線）431

電話 093-951-4331（代表）

令和4年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品

◆ 最優秀賞（3作品）◆

「小学生の部」

「また明日 どうろにひびく 友のこえ」

たかいわ さとし
高岩 智志 さん （福岡県 私立敬愛小学校）

「中学生の部」

「この道が たくさん運ぶ 物語」

ましま りつ
眞島 李都 さん （山梨県 甲府市立笛南中学校）

◎ 「一般の部」

「朗らかに 『お先にどうぞ』が 言えた朝」

たなか やすお
田中 康雄 さん （埼玉県 白岡市）

◎最優秀賞3作品のうち、委員に特に好評だった「朗らかに 『お先にどうぞ』が 言えた朝」を今年度の代表標語とします。

◆ 優秀賞（6作品）◆

「小学生の部」

「ゆめつなげ きずなもつなげ みちつなげ」

かみむら そうた
上村 奏太 さん （新潟県 新潟市立新津第三小学校）

「歩く道 守る命は ここにある」

たむら ともか
田村 友花 さん （新潟県 佐渡市立小木小学校）

「中学生の部」

「横断歩道 上げたその手は 命綱」

うおたに ことみ
魚谷 珠海 さん （兵庫県 神戸学院大学附属中学校）

「縁の下の力道」

きたむら まどか
北村 舞冬香 さん （埼玉県 ときがわ町立都幾川中学校）

「一般の部」

「ポイ捨てで 自分の心 捨てないで」

ひご さちお
肥後 幸男 さん （鹿児島県 鹿児島市）

「変わる世に 変わらぬ道の 大切さ」

とくのう よしたか
得能 義孝 さん （広島県 三原市）

【各委員からの総合選評】

《三好委員》



全体に言葉が弾んでおり、元気がよかったですね。どれも詠み易くスッと入り込んできましたが、まったく新しい言葉の使い方の「あっぱれ標語」も多く、新しい風を感じました。今年は、募集と同時にコロナ禍だけでなく戦いや災害が続いたので、より人の心を優しくしてくれるような作品作りとなったのでは。どんな年代の人にも夢や勇気を与え、切り開いていくキーワードがありそうです。

「出口」は、まさに道の先にあり？ さりげない日常や人とのふれあい、感謝する気持ちや大切なものを守ることの大切さを思い起こさせてくれる標語たち、その全てをカレンダーにして毎日を送りたくなりました。

《やすみ委員》



皆さまからいただいた「道路」への思いあふれる標語の数々、今年度も厳正に審査をさせていただきました。最優秀賞に決定した各部門の標語は、今の私たちの暮らしや世の中の状況と沿うような内容と言葉選びのものになっていると思います。特に、代表標語に決定した《朗らかに「お先にどうぞ」が言えた朝》は、道路での風景や人と人の表情が描かれ、現代の私たちにとっても大切なことを伝えてくれているように感じました。

これからも多くの方々が標語づくりに参加して下さることで「道路ふれあい月間」の輪がさらに広がっていくことを願っています。

《吉岡委員》



日々の思いを短い言葉に託した応募作品2,909点。内容、表現とも豊かで、言葉による大きなパッチワークのようでした。選出された9作品からは心の動きが感じられ、とくに代表標語 朗らかに「お先にどうぞ」が言えた朝 では街や道路に爽やかさが広がるようです。

なおスマホ、SDGs、LINEなどの言葉を織り込んだ作品も寄せられ、現在進行形の感性に惹かれました。

【各委員から最優秀賞作品へのコメント】

小学生の部 「また明日 どうろにひびく 友のこえ」

やすみ委員 元気な子どもたちの姿が浮かんでくる作品です。“明日”という言葉からは明るい未来が想像でき、“ひびく”という言葉には音のイメージだけでなく心の伸びやかさも感じとることができました。学校で過ごした一日の終わりや夕暮れまで友達と遊んだ別れ際に交わす「また明日」の言葉。身近な道路の一場面が標語として完成されていて、交通安全や日本の各地域の道路事情なども考えさせてくれる一面をしっかりと含んだ良い作品だと思います。

中学生の部 「この道が たくさん運ぶ 物語」

吉岡委員 道路が物語を運ぶという想像は奥深いと思います。友達や家族、また見知らぬ人々が歩いたり自転車乗ったり車で通過したりする中には、楽しいできごとあり、辛いことありで、人の数だけの物語が行き来しているはず。中学生なら決意や希望など、重大な心の物語も抱えて通学しているかもしれず、道路は自分と仲間の思いが交錯する場ですね。

一般の部 「朗らかに 『お先にどうぞ』が 言えた朝」

三好委員 いつものクルマ通勤途中や散歩中のひとコマかなと思いましたが、幼な子の通学から会社や買い物中までどんな年代や光景にもピタッとくる魔法の楽しい生活推進標語。どのセンテンスも「陽」で満ち、最後の“朝”もカギ括弧も効いていて、詠んでいるだけで幸せ気分になります。実は普段から声掛けや譲り合いをしている人でもタイミングって意外と難しく、出来ずにガクッとすること多いはず。うまく出来たらその日は笑顔の連鎖となりますが、声に出さずとも心で会話したり、マスクしていたら目で語るだけでもいいよね！と再認識。この爽やかな標語が日本中の道路に溢れる日が楽しみです。